

地域訪問記

団体の継続に着目し紹介します。



児童と一緒に
花の植え付け



学校の横を
流れる太田川。
幼・小一緒に
稚鮎の放流



ミシン学習の支援

幼稚園・小学校を応援するコミュニティ

今井幼・小応援する会（袋井市）

袋井市の太田川沿いに広がる今井地区（約1600世帯）で活動を行っている「今井幼・小応援する会」。今、各地で進められているコミュニティスクールの先駆けではないか？行政からの支援もなくどう学校と繋がれたのか？私自身も吉田町で子どもたちを育む活動をしている事から興味を惹かれ、取材先の今井コミュニティセンターを訪ねました。

地域で応援する

平成26年、夏の暑い中草取りをする幼稚園の先生の姿を見た会長が「何かできることはないか」とこの会の立ち上げを決意し、自ら幼稚園・小学校の門をたたきました。

施設的环境美化や花壇や菜園の管理、登下校の見守り等を会員にて行い、幼・小の先生には教育に専念してもらう環境を整えました。同級生を中心に声をかけて始まった活動も9年目を迎え、現在、49人のアクティブシニアが得意な技術や知識を活かして活躍しています。

月1回、会の役員と幼稚園園長、小学校校長、教頭が揃って打ち合わせをし、作物を育てることの大変さと収穫の喜びの体験、太田川の清掃活動や稚鮎の放流を行い、地域の大人との交流や命の大切さを教えています。令和3年度の活動は幼小合わせて40件で、コロナ禍により中止になったのは流しそうめんの1件。屋外とはいえ、子どもたちとの活動が厳しいコロナ禍で実施できているのは、先生方との信頼関係の厚さを感じずにはられません。

喜びを力にして

やりがいや喜びを伺うと、久野さんは「草刈りをしてくれいになると子どもたちも喜んでくれる」今川さんは「皆、

自分の孫の様に思う、名前と呼ぶ間柄になった」高塚さんは「学校と繋がりができ、感謝され嬉しい」と皆さん目じりが下がったお顔で話します。小学校の卒業式で「将来、応援する会に入りたい」と言ってくれた子がいたそうで、奥之山会長は「いずれ自分も一緒に活動したいと言う子どもが増えて欲しい」と目を輝かせていました。

4つのピースが作る和

「この地域の自慢の団体です」と自治会連合会長の金原さん。草刈りでの燃料代は学校が持ってくれるとはいえ、自己財源（年会費1000円）のみでの運営や活動の多さはなかなかマネできません。

幼稚園・小学校・コミュニティセンターが隣り合って建ち、活動の根源になっている事、園児47人・小学生214人でコミュニケーションが取りやすい人数である事、子どもや先生の為に活動したいという地元を愛する行動力のある仲間がいる事、そして何より授業中に草刈りの音が聞こえても、その姿を子どもたちに見せたいという学校の理解がある事。この4つのピースがお互いの形を大切にしながら和を作りあげていると感じました。

恵まれた環境を活かし、子どもたちの郷土愛の醸成と地域貢献という自己実現の場として更なる活躍を期待します。

◇代表：奥之山 隆さん（問合せ・0538-48-7172）

【情報提供：峰野 勇】



レポート：市川頼子 編集委員